



TITLE:

# 戦後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動 ト日本移民問題(一)

AUTHOR(S):

米田, 庄太郎

---

CITATION:

米田, 庄太郎. 戦後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ト日本移民問題(一). 經濟論叢 1916, 2(2): 176-196

ISSUE DATE:

1916-02

URL:

<https://doi.org/10.14989/126963>

RIGHT:

京都帝國大學法學科大學

# 經濟論叢

第二號

第二卷

## 論說

●戸數割及戸別割ヲ論ズ

法學博士 神戸 正雄

●戰後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ト日本移民問題(二)

講師 米田庄太郎  
助教授 山本美越乃

●民族的自覺ト植民地土民ノ教育

## 研究

●不換紙幣ノ價格ニ就テ

法學博士 戸田 海市

●大藏省證券ノ割引歩合ニ就テ

法學士 三木 純吉

●保險學說ノ發展(三)完

法學士 小島昌太郎

## 雜錄

●中田公直氏遺著「佐藤信淵ノ農政學說」

同志社大學教授 瀧本 誠一

●米ノ生産費ニ就テ

助教授 河田 嗣郎

●商業道德ト時勢ノ變

法學博士 神戶 正雄

●家庭ニ關スル新統計調査例

教授 財部 靜治

●中歐經濟同盟說ニ就テ

法學博士 小川 郷太郎

●幼兒死亡ト貧困

法學博士 河上 肇

●米國ニ於ケル各國移民ノ消長

助教授 山本美越乃

●小國ノ將來

講師 高田 保馬

●紹介——祖國ヲ顧ミテ(河上博士著)孤立國(谷井法學士譯)蘇峰文選(德富猪

一郎著)

## 戰後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ト日本移民問題(一)

講 師 米 田 庄 太 郎

### 一

余ハ一昨年十二月廣島高等師範學校教育研究大會ノ招聘ヲ受ケ「現代文明ト人口問題」ト云フ演題ニテ一場ノ講演ヲ試ミタル際、目下ノ歐洲大戰爭ガ交戰國ノ人口狀態及ビ人口運動ノ上ニ及ボスト推察サレル種々ナル影響ヲモ合セテ概論シタガ、其ノ中ニ戰後交戰國ニ於ケル人口ノ減少殊ニ活動階級ノ人口ノ減少ガ米國ノ移民運動ノ上ニ及ボス影響ノ重大ナル可キコトヲ推察シテ、其ノ影響ノ一般并ニ之レト日米間ノ移民問題トノ關係ヲ概論シテ左ノ如クニ述ベテ置イタ。

「戰後目下ノ交戰國ニ於ケル人口ノ減少、殊ニ活動階級ノ人口ノ減少ハ、又移民問題ノ上ニ大ナル影響ヲ及ボスコトデアラウト思フ。ソシテ最トモ強ク此影響ヲ受クルモノハ亞米利加デアルト思フ。南北亞米利加ノ何レノ國デモ其自然ノ富源ヲ十分ニ開拓スルニハ尙ホ多クノ來住者ヲ必要トスルノデアル。然ルニ最近ノばるかん戰爭ニ續イテ、今回ノ大戰亂ハ大ニ歐洲ノ移民ヲ減少スルデアラウ。殊ニ從來米國デ尤トモ歡迎シテ居ツタちゆーこん種ノ移民ハ大イニ減少スルコトナルノデ、今回ノ大戰亂ガ間接ニ米國ニ及ボス影響ハ甚大ナルモノデアラウト思フ。今米國ニ於ケル歐洲移民殊ニ其ノ希望スルちゆーこん種ノ移民ガ大ニ減少スルトシテ、而モ米國ガ尙ホ移民ヲ必要トスル以上ハ、自カラ亞細亞移民ノ制限ヲ緩メナケレバナラナクナル。殊ニちゆーこん種ニモ劣ラナイ日本移民ノ制限ハ單ニ緩ルメルダケデナク、寧ロ日本移民ヲ歡迎シナケレバナラナクナルト思フ。余ハ戰後米國ニ於テ移民問題ガ大ニ論議サレテクルニツレテ、自カラ只今述ベシガ如キ傾向ガ起リ、而シテ日米間ノ移民問題ハ案外容易ニ解決サレテ來ルノデハアルマイカト思フ。」\*

右ノ所述ハアマリニ簡單デ、又粗雜デアルガ、其ノ場合ニハ夫レ以上ニ詳シク述ブル暇ハナカツタソレデ、其後改メテ右ノ豫想ヲヤヤ詳シク論證スル考ヘデアツタガ、其暇ナクシテ遂ニ今日マデ延引シタノデアアル。併シ夫レガ爲メニ余ハ歐洲戰爭開始後今日ニ至ルマデニ米國ニ起レル種々ナル事情ニ於テ余ノ豫想ヲマスマス確ムル事實ヲ發見スルコトガ出來タト信ズル。茲ニ其ノ一例トシテ我國ノ新聞紙ニ現ハレタ一ノ記事ヲ舉ゲテ置クガ、昨年六月三日ノ大阪朝日新聞紙上ニ加州排日熱減退ト題シテ左ノ記事ガ掲載サレテ居ツタ。

「米國かりふねるにあ州さくらめん」ミニ於テ法律事務所ヲ經營シテ居レル法學士正田伊三郎氏ハ加州ニ在ルコト既ニ十數年ニ及ベルガ、二日まんちゆりやの號ニテ歸朝シ語ツテ曰ハク、近來排日思想ノ減退シタルハ明白ナル事實ニシテ殊ニ純粹ノ米人等ハ疑キノ排日論ノ不法ナリシヲ後悔シ居レリ、又加州排日ノ源泉タリシ歐洲移民ガ排日ノ聲ヲ大ニスル傍巴奈馬運河開通後盛カンニ自國労働者ヲ招致セン計畫ナリシ所同運河ハ既ニ開通シタレドゾレト同時ニ大亂勃發トナリ歐洲移民日ニ月ニ歸國スルモノハ益々其數ナ増セドモ從來年々何百萬人トナク押シ寄せ來レル労働者ノ續キテ來ルモノナク、從フテ労働移民ノ不足ヲ呈シタル事ガ排日減退邦人好遇ノ一動機タルハ無論ナレドモ歐洲交戦國民ガ今次ノ戰亂ニ會シテ邦人了解ノ程度ヲ進メタル事モ亦爭フ可カラザル事實ナリト。

余ハ右ノ記事ハ余ノ豫想ヲ確カムルモノトシテ大ニ興味ヲ感ジタ更ニ昨年十月四日さんたろーどニ於テ開カレタル第十六回加州労働大會ニ我國ノ労働者ヲ代表シテ出席サレタル法學士鈴木文治及ビ吉松貞彌ノ二氏ガ該大會ニ就テ通信サレタル記事\*ヲ見ルニ近來加州労働者ノ日本労働ニ對スル感情モ段々改善サレツツアル様子デアル。隨フテ戰後日米間ノ移民問題ガ平和的ニ満足ニ解決シ得ラルル希望ハ一層増シテ來タト思フ。併シ余ノ茲ニ少シク論ジテ見タイト思フ事ハ此解決ノ方案デハナクシテ、戰後米國ニ於ケル歐洲移民運動ノ形勢ハ米國ヲシテ自カラ日本移民ヲ歡迎セシムル傾向ヲ生ズルニ至ルデアラウト推察サルル理由デアル。要スルニ余ハ歐洲戰爭開始前ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ノ形勢及ビ

\* 「労働及ビ産業」第五十二號「加州労働大會出席ノ記」及ビ「労働大會雜觀參考」

其ノ形勢ヲ支配セル主要ナル原因ヲ考究シ、又歐洲戰爭開始後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ノ形勢并ニ勞働狀態ヲ考察シテ以テ、戰後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ノ變動ヲ推測シ、更ニ其變動ガ日米間ノ移民問題ヲ平和的ニ満足ニ解決スルニ都合好キ狀況ヲ起スモノナルコトヲ論ジテ見ヤウト思フ。

## 二

先ヅ戰爭開始前ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ノ形勢ヲ考察シテ見ヤウト思フガ今米國政府ガ海港税關ニ於テ外國ヨリノ海上旅行者ヲ登錄シ始メタルハ一八二〇年ニシテ、更ニ其ノ中ニテ一時ノ旅客ト移住者トヲ區別シ始メタルハ一八五六年デアル。サレバ一八五六年以前ニ付テハ、外國來住者ノ數ヲ精確ニ知ルコトハ出來ナイ、吾人ハ只種々ノ方面ヨリ見テ大體上ノ推算ヲナシ得ルノミデアル。ソレデ茲ニハ只一八五六年以後ノ形勢ニ付テ考察スルニ止メテ置クガ、先ヅ同年ヨリ一九〇〇年ニ至ル四十五年間ノ形勢ヲ調ラベテ見ルニ其ノ間ニ於テ來住者ノ最少ナカリシハ一八六〇年及ビ同六一年ニシテ、其ノ數ハ八萬九千七百二十四人ト八萬九千七人トデアル。但シ此ノ二ヶ年ニ於テハ來住者ハ例外ニ少ナカツタノデ其他ノ年ニ於テハ最トモ少ナカリシ年デモ十一萬人以上ニ達シテ居ル。而シテ

右ノ期間ニ於テ來住者ノ最トモ多カリシハ一八八二年ニシテ、其ノ數ハ七十八萬八千九百九十二人デアル。之レニ次デ

一八八一一年ニ六十六萬九千四百三十二人

一八八八年ニ五十四萬六千八百八十九人

一八八三年ニ六十萬三千三百三十二人

一八八四年ニ五十一萬八千五百九十二人

一八九一年ニ五十六萬三百十九人

等ハ來住者ノ甚ダ多カリシ年ニシテ、其他ノ年ニ於テハ總テ五十萬人以下デアル、而シテ右ノ期間ニ於ケル毎年平均數ハ三十二萬八千七百八十七人弱デアル。

次ニ第二十世紀ニ入りテヨリノ形勢ヲ考察シテ見ルニ、一般ニ來住者ノ數ハ大ニ増加シテ居ル。先ヅ一九〇一年ヨリ同一〇年ニ至ル最初ノ十ケ年ニ付テ見ルニ、來住者ノ最トモ少ナカリシハ一九〇一年デアルガ、而モ四十八萬七千九百十八人ヲ計ヘテ居ル。而シテ其ノ最トモ多カリシ一九〇七年ノ如キハ殆ンド百三十萬人ニ達シテ居ツテ、是レ米國ノ移民史上移民數ノ最高點ニ達セシ年デアル。更ニ特ニ一九一〇年七月一日ヨリ一九一四年六月三十日即チ大體上歐洲戰爭開始ノ實際マデノ最近ノ形勢ヲ考察シテ見ルニ、此ノ四ケ年間ノ毎年平均數ハ百三萬三千二百八十三人ニシテ、而シテ其ノ最トモ多カリシ一九一三年ノ數ハ百十九萬七千八百九十二人デアル、

今上ニ述ベシガ如キ多數ノ移民ヲ年々米國ニ供給スルモノハ主トシテ歐洲諸國デアルガ、更ニ歐洲諸國ノ中デモ近來殊ニ多數ノ移民ヲ供給スルモノハ何レノ國デアルカト云フニ、是レ即チ所謂新移民ヲ出ス諸國デアル。但シ米國ニ於テハ歐洲移民ハ舊移民ト新移民トノ二種ニ大別サレテ居ルガ、舊移民ト云フハ大體上北歐諸國ヨリノ移民ノ事ニシテ、新移民ト云フハ大體上南歐諸國ヨリノ移民(其ノ内ニハ露西亞ノ移民ガ含マレテ居ル)ノ事デアル。今左ニ最近歐洲移民ノ最トモ多カリシ一九一三年ノ百十九萬七千八百九十二人ニ就テ、其國民的內譯ヲ示シ、所謂新移民ガ近來如何ニ大ナル割合ヲ占メテ居ルカラ明ラカニシテ置ク。

舊 移 民		新 移 民	
英 蘭	四三、三六二人	露 西 亞	二九一、〇四〇人
獨 逸	三四、二二九人	伊 太 利	二六五、五四二人
愛 蘭	二七、八七六人	澳 太 利	一三七、二四五人
瑞 典	一七、二〇二人	匈 牙 利	一一七、五八〇人
蘇 格 蘭	一四、二二〇人	希 臘	二二、八一七人
佛 蘭 西	九、六七五人	葡 萄 牙	一四、一七一人
諾 威	八、五八七人	歐洲土耳其	一四、一二八人
和 蘭	六、九〇二人	西 班 牙	六、一六七人
丁 抹	六、四七八人		
合 計	一七五、九三七人	合 計	八六八、六九〇人



右ノ表ニヨリテ見レバ、新移民ノ數ハ舊移民ノ數ノ約五倍ニ當ツテ居ル。又新移民ノ中ニ於テモ十萬人以上ノ移民ヲ供給スルモノハ露西亞、伊太利、奧太利及ビ匈牙利等ノ諸國デアルコトヲ見ルノデアル。ザレバ吾人ハ右ノ表ニヨリテ、今來米國ニ最トモ多クノ移民ヲ供給スルハ歐洲ノ何レノ諸國デアルカヲ大體上察知スルコトガ出來ル。更ニ新舊移民ヲ合セテ考察スルニ、最トモ多クノ移民ヲ供給スルモノハ露西亞、伊太利、奧太利、匈牙利、英國、獨逸、佛蘭西等ノ目下ノ交戰國デアルコトハ、戰後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ヲ考察スル上ニ特ニ注意ス可キ點デアル。

尙ホ戰後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ノ形勢ヲ推測スルニ就テ、重要ナルコトハ年々母國ニ歸ル歐洲移民數ノ調査デアル。此調査ノ必要ニ就テハ移民局ハ屢々政府ニ上申シタガ、然ルニ議會ニ於テハ一九〇七年ニ至ルマデ、之ヲ認許セザリシヲ以テ、同年七月以前ノ形勢ニ就テハ精確ニ知ルコトハ出來ナイ。只汽船會社ノ報告ヤ國勢調査書ニヨリテ其ノ一般ヲ推算シ得ルバカリデアル。尙ホ一九〇七年七月以後ノ形勢ニ就テモ茲ニ詳シク述ブル暇ハナイカラ、只其ノ一般ノ傾向ヲ示スニ止メテ置クガ、後ニ述ブル如ク米國ニ於ケル經濟的景氣ノ如何ニヨリテ來住者ノ數ニ著シキ變動アルト同ジク、又年々母國ニ歸ヘル歐洲移民ノ數ニモ著シキ變

動ガアル。併シ紐育港移民事務官ふれでつく、はう氏ノ調査ニヨレバ、順當ナル經濟的狀況ノ下ニ於テ年々母國ニ歸ル歐洲移民ノ數ハ大體上二十萬人ヨリ三十萬人ノ間ヲ上下シテ居ルノデアル。例ヘバ一九一三年ニ歸國セシモノハ二十四萬八千五百五十九人ニシテ、一九一四年ニ歸國セシモノハ二十五萬七千二百九十五人デアル。吾人ハ之レニヨリテ米國ニ於ケル歐洲移民ノ順當の移動率ヲ大體上推察スルコトガ出來ル。併シ經濟の景氣ノ變動如何ニヨリテ歸國者ノ數ハ此ノ二倍或ハ三倍ニモ上リ得ルコトハ推察シ得ラレル。

戰爭開始前ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ノ形勢ニ就テハ米國政府ノ發行セル左ノ諸報告ニヨリテ詳シク研究スルコトハ出來ルガ、茲ニ詳シク述ブル暇モナク、又別ニ其ノ必要モナイト思フカラ、只本論文ノ問題ヲ考究スル上ニ特ニ必要ト思ハル點ヲ簡單ニ述ブルダケニ止メテ置ク。

(1) Report of the Industrial Commission, Vol. XV. and Vol. XIX. (2) Report of the Senate Committee on Immigration, 54th Cong, 18d Sess. No. 290 (1896); 57th Cong, 2d Sess. No. 62 (1902). (3) United States Bureau of Immigration and Naturalization; Commissioner General of Immigration, Annual Reports. (4) United States Bureau of Statistics; Immigration into the United States from 1820 to 1903; Special Report on Immigration, by Edward Young. (5) United States of the Census; Census Report; A Century of Population Growth, 1909. (6) New York Bureau of Immigration and Industry; First Annual Report, 1911. (7) New York Commission of Immigration; Report, 1909, etc.

### 三

前節ニ於テ余ハ歐洲戰爭開始前ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ノ形勢ノ一般ヲ概論シタガ、次ニ本節ニ於テハ其形勢ヲ支配スル主要ナル原因ヲ少シク論究シヤウト思フ。

今戰爭開始前ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ノ形勢ヲ支配セル主要ナル諸原因ハ、余ハ之ヲ大體上經濟的、政治的及ビ宗教的ノ三種ニ大別スルコトガ出來ルト思フ。併シ此等三種ノ主要原因ノ中デ、近來最トモ重要ナルモノト一般ニ認メラレテ居ルノハ經濟的原因デアル。而シテ戰後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ノ形勢ヲ支配スル最トモ重要ナル原因モヤハリ經濟的原因デアルト思ハルカラ、茲ニ此種ノ原因ニ就テ特ニヤヤ詳シク論究シヤウト思フ。サレド政治的原因モ亦戰後ノ形勢ノ上ニ少ナカラズ影響ヲ及ボスカモ知レナイカラ決シテ之ヲ輕視シテハナラナイ。ソレデ便宜上先ヅ政治的原因及ビ宗教的原因ヲ概論シ、夫ヨリ特ニ經濟的原因ニ就テヤヤ詳シク論究シヤウト思フ。

先ヅ政治的原因ヨリ論シ始メルガ、茲ニ政治的原因ト云フハ、ツマリ歐州諸國ノ人民ヲシテ母國ヲ去ツテ米國ニ移住セシムルニ至レル政治的事情、動機等ヲ總括

セルモノデアル。而シテ其ノ最トモ重要ナルモノハ消極的ニハ母國ニ於ケル政治的逆境ノ結果ヲ免レントスル念、或ハ兵役ヲ免レントスル念ニシテ、積極的ニハ米國ニ於ケル政治的自由ノ恩澤ヲ享受セントスル念デアル。

母國ニ於ケル政治的逆境ノ結果ヲ免レントスル念ヨリ起レル歐洲人ノ米國移住ハ、近來歐洲諸國ニ於テ一般ニ政治的自由ノ發達セル結果、大ニ減少シ、隨フテ此ノ種ノ政治的原因ハ近來大ニ重要ヲ失ナフテ居ルガ、併シ以前ニハ隨分重要ナルモノデアツタ。例ヘハなほれおん時代ニ次テ起レル民主的運動勃發ノ時代ニ於テ、一般ニ其ノ運動ノ不成功ニ終レル結果トシテ多數ノ自由主義ノ人々ガ米國ニ移住セルガ如キ、又千八百六十年代及ビ七十年代ニ於ケル普魯西ト丁抹トノ戰爭、普魯西ト澳太利及ビ普魯西ト佛蘭西トノ戰爭等ハ戰敗國ノ多數ノ人民ヲシテ米國ニ移住セシメタルガ如キ、又民族的反感ニ基ヅケル政府ノ壓制ハ壓制ヲ受ケタル多數ノ人民ヲシテ米國ニ移住セシメタルガ如キハ、何レモ政治的逆境ノ結果ヲ免レントスル念ヨリ起レル移住デアル。＊此ノ種ノ原因ハ上ニ述ベシ理由ニヨリテ近來ハ大ニ其ノ重要ヲ失ナフタノデアルガ、サレド若シ目下ノ大戰爭ノ結果トシテ戰勝國ガ他國ノ領土ヲ占有スルコトアランニハ、其領土内ノ人民ガ或ハ米國ニ

\* Frank I. Warne, The Immigrant Invasion, 1913, p. p. 39-43參考

移住セントシ、而シテ此ノ種ノ政治的原因ガ再ビ戰後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ノ形勢ヲ決定スル重要ナル一原因トナルカモ知レナイ。

次ニ徵兵制度ノ行ハルル歐洲諸國ニ於テハ、兵役ヲ免レントスル念ガ、多數ノ青年ヲシテ米國ニ移住セシメタル主要ナル原因デアツタ。獨逸、露西亞、澳大利、丁抹、伊太利等ヨリ移住シ來レル多數ノ青年ハ主トシテ此ノ種ノ原因ニヨリテ移住セルモノトデアルト思フ。而シテ戰後若シ歐洲諸國ニ於テ軍國主義ガ大ニ勃興センニハ、此ノ種ノ原因ハ米國ニ於ケル歐洲移民運動ノ形勢ヲ決定スル重要ナル一原因トナルカモ知レナイ。併シ之レト同時ニ歐洲諸國ハ全然青年ノ國外移住ヲ禁止スル法律ヲ設定スルカモ知レナイ。

次ニ米國ニ於ケル政治的自由ノ恩澤ヲ享受セントスル念ガ歐洲人ヲシテ米國ニ移住セシメタル一原因デアツタコトハ疑ハレナイ。併シ此原因ハ始メハ相當ニ重要ナルモノデアツタガ、近來歐洲諸國ニ於テモ政治的自由ガ一般ニ發達スルニツレテ大ニ重要ヲ失ナフテ居ル。工業調査委員ノ移民調査報告中ニモ左ノ如ク云ハレテ居ル。少數ノ人々ハ吾國ノ政治ガ共和主義デアルガ爲メニ移住シテクル。併シ之レハ通例重要ナル一動機デハナイ。\*サレド戰後若シ歐洲諸國ニ於テ軍國主

\* Reports of the Industrial Commission on Immigration and on Education. (Vol. XX of the Commission Reports, P. XII, 1901)

義ガ大ニ勃興シテ人民ノ自由ヲ大ニ束縛シ、又戰後ノ財政調理ノ必要上重稅ヲ課スルガ如キコトアランニハ、此種ノ政治的動機ガ再ビ米國ニ於ケル歐洲移民運動ノ形勢ヲ決定スル重要ナル一原因トナルカモ知レナイ。併シ之レト同時ニ歐洲諸國ノ政府ハ一時的ニセヨ人民ノ國外移住ヲ全然法律上禁止スルカモ知レナイ。

以上政治的原因ノ一般ヲ概論シタカラ、次ニ宗教的原因ニ就テ少シク述ベテ置ク。宗教的原因モ亦米國移住ノ歴史ノ始メヨリ永ク其ノ重要ナル一原因デアツタ。まつさちゆせつつ州ニ植民地ヲ建設シタ清教徒、めりーらんど州ニ定住セルろーまん、きやそりつく徒べんしるぐあにあ州ニ移住シ來レルぐえーかー徒等ハ何レモ母國ニ於ケル宗教的迫害ヲ脱レン爲メニ母國ヲ去ツテ米國ニ來レルモノデア。ル。而シテ其後モ米國ハ常ニ良心ノ自由ト禮拜ノ自由ヲ求ムル人々ノ避難地トナツテ居ル。近來此ノ宗教的原因ニヨリテ多數移住シ來レルモノハ露西亞ノ猶太人デア。ル。而シテ戰後ニアリテモ、此ノ種ノ原因ハヤハリ一原因トシテ持續スルデア。ラウト思フガ、併シサホド重要ナルモノトハナラナイデア。ラウト思フ要スルニ余ハ戰後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ヲ支配スル最トモ重要ナル原因ハ戰爭前ニ於ケルト同ジク經濟的原因デアツテ、而シテ之レニ次テ重要ナルハ政治的原因

デアラウト考ヘル。宗教の原因ハ近來信教ノ自由ガ一般ニ發達シ來レルガ爲メ歐洲諸國ニ於テモ宗教的迫害ガ大ニ減少シ、隨フテ之レガ爲メニ國外ニ移住スルト云フ傾向ハ露西亞以外ニ於テハアマリ見ナイ様デアル。而シテ戰後ニ於テハ露西亞政府モ恐クハ猶太人ヤ波蘭人ニモ信教ノ自由ヲ十分ニ保證スルデアラウト思ハレルカラ、戰後ノ移民運 ノ一原因トシテハ宗教的原因ノ勢力ハ大ニ減スルデアラウト信ズル。\*

却說余ハ以上述ベシ如クニ戰後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ノ形勢ヲ決定スル原因トシテ經濟的原因ヲ重要視スルノデアルカラ、戰爭前ノ米國ニ於ケル該運動ノ原因トシテノ經濟的原因ニ就テ茲ニ特ニヤヤ詳シク論究セントスルノデアルガ、今戰爭前ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ノ形勢ヲ支配セル最トモ重要ナル原因ハ經濟的原因デアアルコトハ、今日一般ニ承認サレテ居ルコトデアツテ、工業調査委員ノ移民調査報告ニモ、移民ノ原因トシテ只經濟的原因ヲ説述スルニ止メテ居ル又米國ニ於ケル移民問題ニ關スル有益ナル最近ノ著作 Prescott F. Hall, *Immigration*, 1907. & Commons, *Races and Immigrants in America*, 1908. & Henry Pratt Fairchild, *Immigration, a World movement and its American Significance*, 1913. ナゾニモ只經濟的原因ノミガ論究サレテ居ル。又サキニ引用

\* Hall, *Immigration*, 1907 p. p. 20&21. Warner, *Ibid.* p. p. 46, 47-

セル Waite, The Immigrant Invasion, 1913 ニハ經濟的原因以外ノ諸原因ニモ論及シテ居ルガ、併シ氏モヤハリ經濟的原因ヲ以テ最トモ根本的ナ、又最トモ重要ナルモノト認メルノデ、特ニ此原因ヲ詳シク論究シテ居ル。然ラバ經濟的原因ハ如何ナル意味ニテ歐洲戰爭開始前ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ヲ決定セル最トモ根本的ナ、又最モ重要ナル原因デアツタガ。

今歐洲人ノ米國移住ヲ決定スル最モ根本的ナル經濟的事實ト認ム可キモノハ一方米國ニ於テ實際上殆ンド自由ニ獲得シ得ラルル廣大ナル土地ガ存在シ、他方歐洲ニ於テ土地ヲ所有シ又ハ利用スルコトノ出來ナイ或ハ困難ナル多數ノ人民ノ存在スルコトデアル。土地ヲ獲得シ所有セントスル念ガ人心ヲ支配スル如何ニ強大ナル經濟的動機デアルカラ考ヘルトキハ、只今述ベシガ如キ事實ハ自カラ歐洲人ノ米國移住ヲ誘致スルモノナルコトハ直チニ理解セラルルノデアアル。サレバ一八八〇年代ニ入りテ米國ニ於テ工業ガ勃興スルマデハ、歐洲人ノ米國移住ヲ決定セル主要ナル根本的原因ハ土地ノ獲得開拓ノ念デアツタノデアアル。是レ同年代以前ニ於ケル歐洲移民ノ大部分ハ北中部及ビ西部ノ諸州ニ定住シテ農業ニ従事セシ事實ニ依ツテ明ラカニ證明サレテ居ル。然ルニ此ノ如クニシテ米國ノ人口ノ



大ニ増加セルコトハ又自カラ製造品ノ需要ヲ大ニ増加セシメ、自カラ工業ノ發達ヲ促ガシテ來タ。而シテ工業ノ發達ニハ新植民地ヨリモ舊植民地ノ方ガ一層適當デアツタカラ茲ニ東部諸州ニ於テ種々ナル工業ガ勃興シ米國工業發達ノ地盤ガ築キ上ゲラレタ。更ニ鐵道ノ迅速ナル建設ハ國內ノ交通運輸ノ便ヲ大ニ發達セシメ、又保護貿易主義ノ實行ハ外國ノ工業的競争ヲ禁壓シタカラ、米國ノ工業ハ殷々トシテ隆運ニ向ヒ、始メニハ主トシテ東部諸州ニ限ラレテ居ツタ諸工業ガ全國ニ廣マリ、從來全ク農業國デアツタ米國ガ又世界ノ強大ナル一工業國トナツテ來タ。而シテ之レト同時ニ大ニ工業的勞動者ノ必要ガ感セラレ、茲ニ歐洲諸國ノ人民ガ工業的勞動者トシテ續々移住シ來ルコトナツタ此クテ一八八〇年代以前ニ於テハ歐洲移民ハ主トシテ米國ノ農業的要求ニ應ジテ移住シ來レルニ反シテ、同年代以後ニ於テハ主トシテ工業的要求ニ應ジテ移住シ來ルコトナツテ居ル要スルニ米國ニ於ケル歐洲移民ノ歴史全體ヲ通觀スルト、土地ヲ奪ハレタル歐洲ノ人民ガ米國ニ於テハ土地ヲ獲得スル事ガ出來ルト信ズル念、及ビ米國ニ於テハ良好ナル賃銀ニテ安全ニ工業的勞動ニ従事スル事ガ出來ルト信ズル念ガ、彼等ノ移住ヲ決定スル最トモ根本的ナ又最モ重要ナル原因デアルコトガ發見サレル。

今米國ニ於ケル歐洲移民運動ヲ決定スル最モ根本的ナ又最モ重要ナル原因ガ、以上述ベシ如ク、經濟的原因デアルト云フコトハ、種々ノ方面ヨリシテ證明サレルノデアルガ、茲ニハ一々詳シク論述スル暇ハナイカラ、只其ノ最トモ明白ナル證明トシテ米國ニ於ケル經濟的繁榮或ハ景氣ノ變動ト歐洲移民ノ變動トノ關係ヲ簡單ニ論述シテ置カウト思フ。ソマリ米國ノ經濟的景氣ガ良好ナルトキハ歐洲移民ノ數ハ非常ニ増加シ、之レニ反シテ米國ガ不景氣ナル場合ニハ歐洲ノ移民ノ數ガ大ニ減少スルコトヲ統計的ニ證明シテ、以テ米國ニ於ケル歐洲移民運動ハ根本的ニ經濟的原因ニヨリテ支配サレテ居ルコトヲ論證セントスルノデアル。

工業調査委員ノ移民調査報告書中ニほゝる氏ハ來住ヲ左右スル最モ重要ナル原因ヲ論ジテ左ノ如ク云ハレテ居ル。

「來住ヲ左右スル最モ重要ナル勢力ハ此ノ國ニ於ケル繁榮ノ程度デアル。此クテ一八三七年ノ恐慌後ハ來住者ハ直チニ大ニ減少シ、又一八四四年ニ再ビ減少シテ居ル。之レニ反シテ一八五四年ノ大好景氣ノ年ニハ來住者ハ四十二萬七千人ニ達シテ居ル。但シ此數ハ愛蘭ノ饑飢及ビ獨逸ノ革命ニヨリテ増加サレテ居ル。而シテ一八六〇年、即チ戰爭勃發ノ年ニハ九萬人ニ減少シテ居ル。又一八七二年ニハ來住者ハ四十三萬八千人ニ達シテ居ルガ、之レニ次デ起ル恐慌後ノ一八七四年ニハ只二十六萬一千人ヲ計フルニ過ギナイ。而シテ一八八二年ノ一般的好景氣ノ年ニハ來住者ノ數ハ最大數ニ達シテ

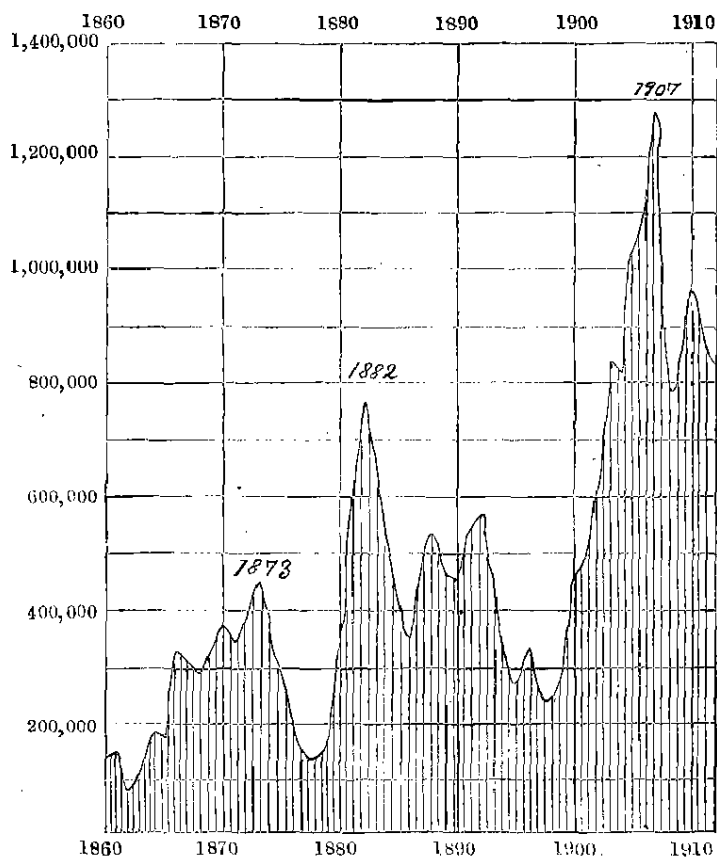
居ルが次デ起レル不景氣ノ期間ニハ大ニ減少シテ居ル。夫レヨリ一八九二年ニ至ルマデニ漸次ニ増加シ其ノ年ニハ五十八萬人ニ達シテ居ル。其ノ後不景氣ガ續イテ來住者ノ數ハ減少シテ居ルが、併シ過古ノ歴史ハ吾人ヲシテ産業的状況ガ都合ヨクナルヤ否ヤ再ビ來住ノ潮ガ高マルデアラウト考ヘシメルノデアアル。\*

以上引用セルほゝる氏ノ語ニヨリテ余輩ハ移民ノ數ノ變動ト米國ニ於ケル景氣ノ變動トノ間ニ如何ニ親密ナル關係ノ存在スルカラ大體上推察スルコトガ出來ルノデアアルガ、其後こむもんす氏ハ此關係ヲ示ス一ノ統計圖ヲ作製シテ一層精確ニ此關係ヲ證明セント試ミテ居ル。但シ氏ハ米國ニ於ケル繁榮ノ指數トシテ輸入品ヲトリ、頭割輸入品ノ一曲線ヲ作ツテ、移民數ヲ表ハス曲線ガ如何ニ密接ニ其曲線ニ隨伴スルカラ示シテ、以テ米國ニ於ケル繁榮ノ度合ト移民數ノ増減トノ間ニ存在スル密接ナルヲ關係ヲ證明セントシタノデアアル。\*\*\* 更ニ最近ニ公ニサレタルわーん氏ノ著作ニハ一八六〇年ヨリ一九一二年ニ至ルマデノ間ニ於ケル恐慌ト來住トノ關係ヲ示ス統計圖ガ載セラレテ居ルカラ、余ハ茲ニ其ノ統計圖ト之レニ加ヘラレタル説明トヲ轉載シテ以テ米國ニ於ケル景氣ノ變動ト來住ノ變動トノ關係ガ如何ニ密接デアルカラ示シ、且ツ之レニヨリテ米國ニ於ケル歐洲移民運動ノ形勢ヲ支配スル最モ重要ナル原因ハ經濟的原因デアアルコトヲ證明セント

\* p. LXXX IX.

\*\* \* Commons, Races and Immigrants in America, 1908. p. 60.

ス  
ル  
ノ  
デ  
ア  
ル。



萬二百三十七人デアル。一九一二年ニハ八十五萬人程デアッタ。一九〇七年ハ米國

論 說 戰後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ト日本移民問題(二) 第二卷 (第二號四二) 一九三

上ノ圖表ハ一八六〇年ヨリ一九一二年ニ至ル間米國ニ於ケル毎年來住ノ全量ト財政的恐慌或ハ産業的不景氣ガ其ノ上ニ及ボセル影響トヲ示スモノデアル。左側ノ數字ハ來住者ノ數ヲ表ハス。一八六〇年ニハ來住者ハ十五萬人ヨリ少ナク(ト云フハ誤ナラン。實際ハ十五

ノ歷史上來住者ノ最トモ多カリシ年ニシテ其數ハ百三十萬人程ニ達シテ居ル。一八七三年、一八八二年、一八九二年及ヒ一九〇七年ノ恐慌年ガ來住者ヲ減少セシメタル結果ハ明ラカニ示サレテ居ル。年々ノ流入ニ於ケル變動ヲ示ス線ノ波動的狀態ニヨク注意セヨ。此圖式ハ又繁榮或ハ好景氣ガ來住ノ上ニ及ボス影響ノ見地カラ見テモ考究サレルコトガ出來ル。各產業復活ハ波線ニ於ケル迅速ナル又時ニハ著シキ昂上ニ伴ナハレ、來着外人ノ數ニ於ケル増加ヲ示シテ居ル。云々\* 今上ニ述ベシ如ク米國ニ於ケル景氣ノ良惡ニ應ジテ、歐洲移民ガ迅速ニ又ハ著シク増減スルニハ、米國ニ於ケル景氣ノ良惡ガ迅速ニ歐洲諸國殊ニ多クノ移民ヲ出ダス諸國ニ知ラレネバナラスガ、今ヤ之レニハ種々ナル機關ガ具ハツテ居ツテ甚ダ迅速ニ通信サレルノデアル。更ニ運輸ノ便利ガ大ニ發達セシバナラスガ、近來汽船ノ速力ノ大ニ増加セルコトト、又其運賃ノ低減セルコトハ移住ノ便利ヲ大ニ増シテ居ルノデアル。要スルニ交通運輸ノ機關ノ大ニ發達セルコトハ米國ノ景氣ノ良惡ヲ迅速ニ歐洲諸國ニ知ラシメ、又之レニ應ジテ迅速ニ移住志望者ノ進退ヲ決定セシムルノデアル。詳シクハ上ニ引用セルほゝる氏著作第三章、ふえあーちやいるど氏著作第八章、わーん氏著作第二章、工業調査委員移民調査報告書中「來住ヲ誘致スル諸

\* Warne, The Immigrant Invasion, p. 214.

原因」ノ項等參考セラレヨ。

#### 四

前二節ニ於テ余ハ歐洲戰爭開始前ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ノ形勢ノ一般ヲ述べ、且ツ其形勢ヲ決定スル主要原因ヲ概論シタガ進ンデ戰後ニ於ケル形勢ノ變動ヲ推測スルニ先ダチ、尙ホ少シク戰爭開始後一ケ年間ニ於ケル形勢ノ一般ヲ考察シテ參考ニ供シタイト思フ。

余ハ戰爭開始後ノ歐洲移民運動ニ關スル米國政府ノ報告書ハ未ダ手ニ入レナイカラ詳細ノ事バ知リ難イガ、併シ紐育港移民事務官ふれでりつく、はう氏が「米國評論」ノ評論昨年十一月號ニ於テ公ニサレタル一論文ニヨリテ其ノ一斑ヲ窺フトコトガ出來ルト思フ。\*

今はう氏ノ記述スル處ニヨレバ一九一四年七月一日ヨリ昨年六月三十日ヲ以テ終ル一ケ年度間、即チ大體上戰爭開始後一ケ年ニ當ル間ニ於テ、來住者ハ四十三萬四千二百四十四人ニ減少シ、之ヲ前年度ニ比較スルト僅カニ其ノ百分ノ三二、三ニシカ當ラナイノデアル。更ニ一九一四年八月一日即チ歐洲戰爭ガ愈々開始サレタ月ノ始メヨリ一九一五年七月三十一日マデノ開戰後滿一ケ年間ニ於ケル形勢

\* Frederic C. Howe, Immigration, Industry and The War, American Review of Reviews, November, 1915.

ニ就テ考察スルニ來住者ハ段々低減シテ、毎月平均三萬二千四百四十四人ニ減少シ、而シテ其ノ減少ハ今日ニ至ルモ繼續シツツアルノデアル。一九一四年七月ニハ六萬七百七十七人入國セシニ比シテ一九一五年七月ニハ只二萬一千五百四人入國セシダケデアル。然ルニサキニ述ベシ如ク順當的經濟狀態ノ下ニアリテモ近來毎年二十萬人ヨリ三十萬人マデノ歐洲移民ハ歸國シテ居ルノデアルガ、開戰後ハ之レニ加ヘテ兵役ノ義務其他ノ理由ニヨリテ歸國セシモノハ甚ダ多イカラ、今日米國ニ在住スル歐洲移民ノ數ハ從來ニ比シテ大ニ減少シテ居ル。サレバ移民制減論者ノ立場カラ見レバ米國ハ今ヤ實ニ良好ナル移民狀態ニアルト云ハチバナラス。サレド是レ米國ノ産業發達上カラ見テ果シテ喜ブ可キコトデアルカ。農業者ガ農業勞働者ノ不足ヲ感ジ始メ、熟練勞働者ノ賃銀ハ實質上段々昂騰シ、又工業的大中心地ニ於ケル同盟罷業ガ直チニ成功シテ居ル有様ナゾヨリ考察スレバ、今ヤ米國ニ於ケル勞働不足ノ傾向ハ歷然トシテ現ハレテ來テ居ル。而シテ工業家ハ戰後ノ勞働供給ニ關シテ不安ノ念ヲ起シツ、アルノデアル。此等ノ諸現象ハ戰後ノ米國ニ於ケル移民問題ヲ推察スルニ付テ特ニ注意ス可キモノデアル。(大正五年一月三日)